にしく市民活動支援センター
にしとも広場
2020 年度　事業報告

管理運営：認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま

Ⅰ．2020 年度運営方針

にしく市民活動支援センター“にしとも広場”管理運営を担い、第 2 期 7 年目となります。2 期目に入ったことを機に、年度ごとに、考えたい重点テーマを設定し、そのテーマに対して様々な視点からアプローチすることとしました。3 か年計画として、2019 年度は「子ども」、2020 年度は「多世代」、2021 年度は「まちづくり」を掲げました。

しかし今年度は新型コロナウイルス感染症が発生したことから、コロナ禍による地域や活動の変化に対応することに重点をおき、テーマを離れ、何ができるか都度考えながら事業を実施し、感染症対策を徹底しつつ運営しました。

－With コロナでの運営－

◆施設利用について

- 定員の制限、アルコール消毒、検温の実施、利用者の連絡先の確認、マスク着用の依頼、席間の距離の確保等に取り組みました。

◆センター主催講座・イベント実施における対応について

- オンラインを併用した、ハイブリッド型の講座形式を実施しました。
- 申し込み数が多数見込まれるイベントは、広い区役所内会議室を利用し、対応しました。

◆オンライン環境について

- 活動団体が利用できるよう、オンライン利用時の WIFI 環境の整備、必要機材を購入しました。

◆オンライン支援について

- Zoom の体験会、主催者（ホスト）向けセミナーを複数回実施しました。
- にしとも広場がオンラインに対応できることを施設連携会議等の各種会議で積極的に発信しました。結果、オンラインの設営方法等の相談やセンターを利用しての会議の実施につながりました。
- 環境や Zoom 実施についての相談対応のほか、にしとも広場でのオンラインでの事業実施の際には、円滑に実施ができるよう、設営から実施まで付き添いサポートをしました。

Ⅱ．事業ごとの報告

１．相談事業

◆ 相談機能の充実と日頃の会話から相談につなぐ

相談の基本を大切にし、誠実に一人ひとりと向き合い、その方の真のニーズを引き出す力、課題に向き合う力を日々の実践や研修で高め、職員の相談力をアップを目指しました。また、地域の施設や関係機関と連携を深めニーズに即した情報の提供を目指しました。特に今年度は今までの生活が困難な状況にあり、出会いの場も少なくなっていることから、利用される方々との会話にも気持ちの共有ができるようなコミュニケーションを心がけました。

1）相談機能の充実

- 活動団体、地域、個人からの様々な相談は、「関わりシート」に記載すると共に職員間で共有・検討し、継続的な対応を行いました。
- 必要に応じて関係機関や施設等と連携を取り、相談者にとってより良い支援になるよう心掛けました。
- 「はじめの一歩じっくり相談日」「団体運営なんでも相談日」等テーマごとの相談日を設け、相談しやすい環境を整えました。

２）相談力の向上のための取組の実施

- 職員全員で行う会議において定期的に、最近 1 か月で行った相談対応の中の気になる事例をピックアップて情報を共有し、よりよい対応につながるよう内容を検討しました。
- 職員研修として、相談対応における基本の再確認と、相談者の思いを受け止め、相談者ご自身が活動を進めていける支援について学びあい、相談対応のブラッシュアップを図りました。

時間・場所	テーマ・内容
7/28（火） 10:30－12:30 受講者：職員 5 名	接遇研修 講師／市民セクターよこはま　事務局長　吉原明香

- 活動団体、地域住民の方と一緒に学ぶ研修【知っておきたいシリーズ】を開催し、共に学びながら基礎知識を高め、スキルアップにつながる機会を創りました。今年度は「傾聴」「発達障がい」「救急救命」を取り上げました。感染拡大防止の観点からソーシャルディスタンスを保ち受講人数を限定しましたが、オンラインも可能な講座では、Zoom 参加を併用するなどの工夫を行いました。

【知っておきたいシリーズ】

時間・場所	テーマ・内容
8/25（火） 13:00－15:00 @にしとも広場 受講者数：5 名	『傾聴』～こころを聴いてみる～ 講師：NPO 法人アーモンドコミュニティネットワーク 理事長：水谷裕子さん 丁寧にその人に向き合い、しっかりと話を聴き、相手を深く理解すること、自分自身の心の変化も含め、傾聴の基礎を学びました。
12/17（木） 13:00－15:00 @にしとも広場 受講者数：23 名 （会場 13 名 オンライン 10 名）	『発達障がいについて学ぶ』 講師：横浜市発達障害者支援センター センター長：西尾紀子さん 近年「発達障がい」という言葉は知られてきましたが、実はどのような生きづらさがあるのかなどわからない事も多くあります。発達障がいについて学び、円滑なコミュニケーションを考える機会を持ちました。
1/26（火） 13:00－15:00 @にしとも広場 受講者数：12 名	『いざという時役立つ　救急救命』 講師：一般社団法人 EMR　河波弘晃さん 感染予防を行いながら、基本的な心肺蘇生法や、AED（自動体外式除細動器）の操作を学び、緊急時の対応について実例を通し具体的に学びました。

2．情報提供・発信事業

◆様々な情報提供のツールを使い、定期的、多面的に情報を発信

昨年度に引き続き、当センターの持つ情報や当センターの周知をさらに促すために、3 つの紙媒体を活用しました。また、日常のお知らせについて、フェイスブックとホームページを併せて活用しました。

1） 情報紙『にしとも広場』（カラー冊子・全 8P）の発行

・ 年２回（9 月 5,000 部 3 月 3,500 部（班回覧ないため減少））を発行しました。

・ 各号、西区で子どもに関わる活動をしている方々に、活動の原点や想いについて取材し、地域活動・市民活動のはじまりや継続に役に立つよう、わかりやすい情報として発信しました。

＜特集内容＞

・ 第 15 号：「つながりを諦めない。心はいつも近くに！
～これからのオンラインの可能性と、つながり方～」
これからのオンラインの活用についての検討会の様子や、
オンラインも活用しながら活動を続けている団体を紹介しました。
掲載団体：わたぼうしカフェ、野毛坂グローカル、にこにこ出前寄席

・ 第 16 号：「いま、出会い直しの時 新しい発見と広がる楽しみ。
地域と、人と、自分と。」
地域との出会い直しをテーマに座談会を企画し、西区内の地域、
自分自身との出会い直しのエピソードを掲載しました。

2） 簡易版情報紙『にしとも広場 mini』（カラーＡ４両面印刷）の発行

・ 表面にはトピック・お知らせ、西区街の名人達人の「来て見て聞いての日」を、裏面にはにしとも広場のイベントカレンダーや自主事業の活動などを掲載し、年４回(5 月、9 月、12 月、3 月)発行しました。

・ 写真やイラストなどを効果的に使用し、分かりやすく、インパクトのある紙面づくりに努めました。

＜15 号＞

＜16 号＞

＜17 号＞

＜18 号＞

3）フェイスブックでの情報発信

・ 2017 年度にフェイスブックページを開設して以来、SNS を通じた情報収集が得意な世代も含めた幅広い層への情報発信ツールとして、よりタイムリーに、イベントの開催内容やにしとも広場のイベント情報を発信しました。少しずつですが、フォロー数も増加しました。

・ フェイスブックページへの「いいね」数：534 人 2021/3/31（参考：428 人 2020/3/31）

４） ホームページでの情報発信

- 地域やにしとも広場で開催されるイベント情報やボランティア募集情報など、タイムリーな情報発信を行いました。
- 『にしとも広場 mini』など紙媒体では、ＱＲコードを掲載し、ホームページの存在をアピールし、フェイスブックと連動させるなど、ホームページへの誘導を行いました。

５） 展示スペースの活用

- 壁面ギャラリーコーナーと立体作品の展示スペース「小箱ギャラリー」の活用を周知しました。
- 西区元気プロジェクトでは、積極的に活動団体・個人に展示を呼びかけ、開催講座の見本作品や講師製作物の展示を行い、活動の周知に活用しました。
- 展示作品をきっかけに活動への参加につながった方、講座開催を実施した方もありました。

３．活動団体のマネジメント支援および、ネットワーク支援事業

活動の自粛が続く中、活動の継続や新しい形での活動の広がりを支援しました。

★登録団体・者に対して、活動状況把握のためのアンケート調査を以下 2 回実施しました。

① 10 月実施／活動自粛が続く中、現状や困りごとオンラインの利用状況について調査

●アンケート結果

	配布数	アンケート回収数	回答率
街の名人・達人	114	**25**	**21.9%**
登録団体	150	**16**	**10.7%**
合計	264	**41**	**15.5%**

現在困っていること

・オンライン利用は便利で良いが、配信することは出来ても、見ることのできない方がいること。
・練習会場確保が難しい。
・私自身が気落ちしている。

にしとも広場に期待すること

・会の広報と会員の募集に期待する。

●アンケート結果からみえたこと

・活動状況について

活動を再開した団体が 70%に上る一方、再開の予定が立たない団体が 17%ありました。

・オンラインについて

すでにオンラインを活用している団体は 36%、今後活用したいと考えているのは 14.6%で、約半数の団体がオンラインを必要と考えていました。
これに対し、必要ではないと答えた団体は 39%で、理由の中には利用方法がわからない、わかる人材がいないという意見もあり、団体構成員の年代、スキルの違いなどによる課題も見えてきました。

② 3 月実施／緊急事態宣言解除後の活動の現状や、
今後の活動活性化の為必要となることについて調査

	配布数	アンケート回収数	回答率
街の名人・達人	114	**15**	**13%**
登録団体	150	**32**	**21%**
合計	264	**47**	**17%**

登録団体　活動活性化のためのアンケート

こちらのフォームからも回答できます

団体名・お名前：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

該当するものに、チェックをお願いします。（複数可）

		そう思う	そう思わない	どちらでもない	すでにしている
1	活動の今後について相談したい				
2	一緒に活動する仲間を増やしたい				
3	活動やイベントに参加する人や関わってくれる人を増やしたい				
4	活動を中断しているが、再開の方法を考えたい、悩んでいる				
5	自分の団体の活動内容や講座等を公表やイベントにして形にしたい				
6	他の団体がどのように活動しているか知りたい				
7	にしとも広場の場所を使ってみたい				
8	にしとも広場の場所を定期的に使いたい				
9	にしとも広場の掲示コーナーに、冊子を展示したい				
10	将来としてスキルアップしたいことがある（内容：　　）				
11	自分の活動をもっと情報発信したい				
12	YOUTUBEについて知りたい、YOUTUBEに動画を上げたい				
13	SNSについて知りたい、LINEを活用したい				
14	ライブ配信について知りたい				
15	Zoomについて知りたい、Zoomを使いこなしたい				
16	団体のホームページを作りたい				
17	にしとも広場を使ってオンライン配信をしたい				
18	その他・意見にご記入ください：				

ご協力ありがとうございました！FAX 045-620-6624/メール ni-shiencenter@star.ocn.ne.jp までお送りください

（アンケート用紙➡）

●アンケート結果

・回答率は低い結果となりましたが、みなさまのニーズや想いが明確に把握できる結果となりました。

活動活性化の為に必要と感じていること（上位抜粋）

・一緒に活動する仲間を増やしたい　53%
・活動やイベントに参加する人や関わってくれる人を増やしたい　53%
・自分の活動をもっと情報発信したい　36%
・他の団体がどのように活動しているかを知りたい　29%
・にしとも広場を使ってみたい　27%

●アンケート結果を次年度事業に活かす

活動の仲間や賛同者を得るには、活動を知ってもらう機会が必要です。また自団体のみでは活動の情報発信には限りがありますが、にしとも広場の関与で発信の機会を増やすことができます。

今回の調査で得られたニーズは、次年度の具体的な事業に反映させていきます。

＜1＞　地域人材ボランティア事業『西区街の名人・達人』

1）新規登録の促進

・ 活動披露の場等を通じて当事業の周知を行い、地域人材ボランティアとして活動を始めるきっかけを創りました。

・ 活動自粛の中でも機会を見つけ新規登録の呼びかけを行い、活動の活性化や地域の方々の選択の幅が広がるよう努力しました。

2）『西区街の名人・達人』のコーディネート

・ 外出の自粛や非常事態宣言の発令で、イベント等も激減したため、活動そのものの自粛が続きましたが、高齢者施設での定期的な水彩画教室や、地区センターでの連続講座、特別支援学校でのマジックなど、活動の場の拡がりを支援しました。

・ コーディネートの相談があった際は、単なるコーディネートにとどまらず、相手のニーズに加え、実施環境（場所・施設）についても丁寧に聴き、安心して活動ができるよう心掛けました。

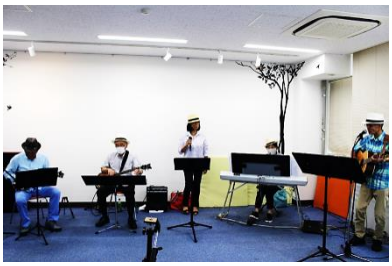
３）『西区街の名人・達人』の活動披露の場づくり

・「音楽の日」（仮）や「来て・見て・聞いての日」、出張講座や出張コンサートなど、活動を披露する場を計画していましたが、コロナ禍で歌うことや演奏が難しく、今年度は開催できませんでした。

・「うたごえ広場」（オンライン）

会場で一緒に歌うことが難しいため、わかりやすいように歌詞をつけ YouTube 配信を行いました。

日にち	午前の部
9/20	Youtube配信
1/17	コロナウイルス感染拡大防止のため中止



1/17 は、第４地区会館をサテライトとして結び、地域の皆さんも楽しむ予定でしたが、感染拡大防止のため中止となりました。

・「来て・見て・聞いての日」

４月、５月は緊急事態宣言発令に伴う休館で開催できませんでしたが、６月から再開し、会場と ZOOM 視聴を組み合わせた開催など、１人でも多くの人に参加していただける方法を考え実施した結果、昨年を超える参加数となりました。

日付	イベント名	人数
4/19	おりがみ動物園　／閉館のため延期	0名
5/3	大道芸　／閉館のため中止	0名
6/28	にこにこ出前寄席（会場＋Zoom）	23名
7/26	おりがみ動物園	5名
8/3	理科実験～浮沈子～	11名
9/26	絵具を作って描こう	7名
10/18	横浜模型部プラモデル講座	2名
11/19	なるほど!西区歴史の足跡（会場＋Zoom）	22名
11/20	ランドマークを眺める歴史散歩（会場＋Zoom）	17名
11/22	歴史と都市デザインの秘密に迫る街歩き（会場＋Zoom）	17名

日付	イベント名	人数
12/6	干支の年賀状～丑～	11名
12/12	干支の年賀状～丑～	10名
12/13	季節を楽しむクリスマスのいけ花	17名
1/23	津軽三味線演奏会	28名
2/28	子ども化学実験	10名
3/28	わくわくマジック教室	15名

参加者：195名（2021.3）

西区の歴史講座

津軽三味線演奏会

おりがみ教室

４）Facebook を活用した活動発信

・『西区街の名人・達人』登録者に呼びかけ、活動の動画や写真を Facebook で発信しました。

・緊急事態宣言で、外出の自粛が求められる中、自宅でも楽しめるもの、市民を応援するものを発信したいと考え４月に登録者へ呼びかけ、フェイスブックでの発信を提案しました。結果、音楽配信を始め、手作りマスクの作り方、理科実験の相談窓口の案内、アート作品の紹介、水墨画やフェイスペイントの描き方の動画など、様々な内容が寄せられ、６月の開館までに１４組の活動を配信しました。

5）『西区街の名人・達人』のホームページ掲載情報の更新

・『西区街の名人・達人』の活用事例をホームページに掲載しました。

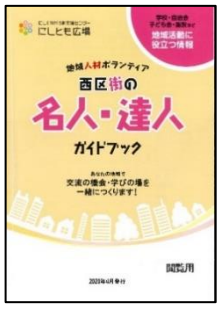
・ 新規で登録があった時は、速やかにホームページの検索データベースに追加するとともに、ホームページでも紹介しました

6）『西区街の名人・達人』ガイドブックの作成・活用

・ 登録者すべてを掲載したガイドブックを作成し、４月に発行しました。

・自治会町内会や各施設など 193 ヶ所に配布しました。

・ 学校、PTA には、教科や行事に関係する登録を抜粋した「学校用ダイジェスト版」を別に作成し、積極的に紹介しました。結果、総合学習の相談や依頼、特別支援学校からの依頼につながりました。



＜2＞登録団体

１）登録の呼びかけ

・ 活動自粛が続く中、団体活動の現状や必要なニーズを把握し、今後の活動がより潤滑で広がりをもつよう支援を心掛けました。

２）団体の登録更新

・ 2021 年の登録更新（3 年毎）に向けて、更新意向の確認、登録内容の確認を行いました。
本来であれば個別にヒアリングをしたいところですが、接触を減らす目的もあり、今年度は活動の現状、今後に向けた課題等のアンケートを実施しました。そこから見えてきた課題を検討し、活動が絶えないよう、活動に広がりがあるよう努めました。

3）グループボックス（ロッカー）の登録更新

・ 2021 年の登録更新（２年毎）に向けて、更新意向の確認・抽選を実施しました。

・ これまで設置のグループボックスから約 1.5 倍の容量があるボックスとなったこともあり、新規使用希望者（若干名）を募集し、25 個全てが利用されている状況になりました。

4）オンライン　西区街の名人達人&登録団体　パワーアップ交流会

・ 活動の自粛が続く中、団体の交流会とはかるとともに、パワーアップにつながる活動のヒントや工夫を共有しました。オンラインで実施としたため、普段にしとも広場を利用する機会が少ない方も参加いただき、新しいつながりや展開のきっかけとなりました。

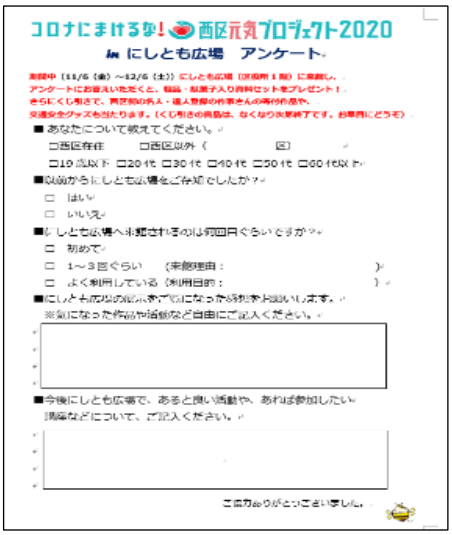
時間・場所	テーマ・内容
3/19（金） 13:00－15:15 参加者：18 名 （会場　2 名 オンライン　16 名）	パワーアップ！交流会 みんなで活動のパワーアップ！ 「コロナ禍の活動の工夫について話そう」 活動での困りごとや、継続するための工夫などを共有しました。

＜チャット欄・後日の感想の聞き取り＞
・交流会で出会った方に、実際に企画を相談し実施することが決まりました（子育てサークル）
・活動をインスタグラムで紹介しているが、参加者同士でフォローすることができた。
・自分の活動をもっと広めたいと考えており、地域新聞の活動に参加することにした。
・名達の会への参加を声掛けすることができた。

＜3＞コロナに負けるな！西区元気プロジェクトへの参加

感染防止対策のため、例年行われている西区民まつりが中止となり、今年度は「コロナに負けるな！西区元気プロジェクト 2020」に協力、参加しました。

・ プロジェクト実施に向けた広報支援と活動動画撮影会への呼びかけを行いました。
・ ブース出店（11 月 6 日）
・ 広報資料配布、198 セット アンケート実施　回答 106 名


コロナにまけるな！西区元気プロジェクト2020
in にしとも広場　アンケート

<アンケート結果>

●来館回数

よく利用している　52%
1～3回くらい利用　24%
初めて利用　25%

●年代

60歳～　72%
40～59歳　21%
20～39歳　7%
～19歳　0%

<アンケート結果>

アンケート回答者のうち、
初めて来館と答えた方が
25パーセントありました。
また、20～39歳が56%を占め、
若い世代への周知につながったことが
わかりました。

●初めて来館された方

60歳～　16%
40～59歳　20%
20～39歳　56%
～19歳　7%

4．地域支援事業

◆　地域で活躍する人材の掘り起こしと養成

当センターに来館される「何かをしたい」「何ができるだろうか」「活動したいがどうしたらよいかわからない」というような思いを活動につなげるきっかけづくりをし、地域での活躍を促しました。

1）「地域になじみの場をつくろう」　日頃のつながりが防災につながること、安心できるなじみの場が身近にあること、西区での暮らしについて考える講座を実施しました。

日時・場所	内容
9/13（日） 10:00－12:00 @にしとも広場 受講者数：43 名 （会場 12 名・オンライン 31 名）	講師： NPO 法人街カフェ大倉山ミエル 代表　鈴木智香子氏 認定 NPO 法人かながわ 311 ネットワーク 代表　伊藤朋子氏

＜アンケートより＞

- コロナ禍という今まで経験のないようなある種の大災害で”なじみの場”のできることは大事で、役割のようなものを改めて考える機会となりました。
- 働いている若者が地域にどう関わっていけるか、一人暮らしの人のコミュニティや引きこもりの人のサポートがどうされているのか、気になりました。
- 鈴木さんのお話はまさに聞いてみたいことでした。これからの活動にとても参考になりました。
- 防災についてはまず自分の備えが出来ていない事に気付き、はっ！としました。住まい、仕事場の安全にもまた目を向けていきたいと思います。

２）「第９期西区地域づくり大学校」

- 本講座は、①講座後もつづく仲間づくり、②少人数制の連続講座、③講座終了後も“にしとも広場”が継続的に受講生を応援することを特徴とし、全６回を区政推進課と協働で開催しました。
- 新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式により、日頃より身近な地域でつながる必要性が高まっていることを背景に、テーマは「今だからこそ地域のつながりづくり」としました。また、西区外も含めた、先駆的な事例の現場を実際に訪問し学ぶ機会を設け（第４講）、卒業後も受講生同士がつながり合えるように、コミュニケーションの時間を多く取り入れました。（各講でワークショップ）
- 定員 15 名としましたが、20 代から 70 代と、幅広い年代の 20 名にご参加いただきました。
（内訳：30 代３名、40 代７名、50 代３名、60 代４名、70 代３名）
- 講座終了後は区役所と連携し、丁寧なフォローアップ・コーディネートを心掛けました。その結果、にしとも広場を利用した自主企画化や、既存活動団体への参加、地域の学校施設のボランティア活動等につながりました。

	日時・場所	テーマ・内容
1	10/17（土） 10：00-12：30 @にしとも広場・オンライン 受講者数：19 名	『テーマ：にしくについて知ろう・今のくらしトーク』 ・オープニング（開講の挨拶：寺岡洋志氏（西区役所区長）、受講生自己紹介、ガイダンス） ・講義：「西区のまちについて」 西区役所区政推進課　村上佳江課長 ・講義：「地域で活動をはじめよう！」 認定 NPO 法人市民セクターよこはま　事務局長　吉原明香 ・分かち合いワーク
2	10/31（土） A コース 10：00-12：30 B コース 13：30-15：30 @にしとも広場・オンライン 受講者数： A コース：12 名 B コース：8 名	『テーマ：くらしのニーズと身近な活動を知ろう』 ・実践者トーク コーディネーター：吉原明香氏 パネリスト： 午前：共育会　朝比奈信弘氏、ヒンメリ・メリ　田中碧氏、三ツ沢ハイタウン　井上恵子氏 午後：にしくシティガイドグループ　渡辺恵市郎氏 あみだな　泉谷ふみの氏、歴 BOW 坂井誠仁氏 ・グループワーク
3	11/14（土） 10：00-12：00 @にしとも広場・オンライン 受講者数：20 名	『テーマ：わたしが場を主催するってどういうこと？』 ・講義：「場づくりとは　わたしが場を主催するってどういうこと？」 NPO 法人れんげ舎　代表理事　長田英史氏
4	11/28（土） A コース 10：00-12：00 @中村ケアプラザ　9 名 B コース 13：30-15：30 @こまちカフェ　7 名	『テーマ：活動を継続・展開するには～自分のプランを考え始めよう～』 A コース　NPO 法人おもいやりカンパニー　代表　津ノ井美晴氏 B コース　NPO 法人こまちぷらす　代表　森祐美子氏
5	12/12（土） 10：00-12：00 @にしとも広場 受講者数：17 名	『テーマ：プランの実行に向けて準備しよう』 ・グループワーク：「チャレンジプランを磨こう」 ・希望者個別相談会 ・全体共有
6	2/6(土) 10：00-13：00 @にしとも広場 受講者数：16 名	『テーマ：プランの振り返り＆これからのつながりづくり」 ・チャレンジプラン実践報告会 ・講義「受講生へのメッセージ：これからの活動に向けて」 講師：長田英史氏 ・修了式　**★修了者　19 名**

<アンケートより>平均点　97.9 点（100 点満点中）

- 知識のインプットだけでなく、多様なスキルと意欲をお持ちの同期の皆さんと意見交換ができたこと、またその交流を強力にサポートいただいた事務局のパッションに触れ、自然とチャレンジプランの検討を深めることができました。
- 今までは同質の人と活動することが多かったですが、多様な方々と活動してゆるく活動する良さを学びました。
- オンラインで参加し、子どもを自宅で遊ばせつつ講座に参加することができ、無理なく世界を広げることができました。
- にしとも広場に行くことができない人、当日、急遽現地参加ができなくなった人も参加することができるので、オンラインの活用は今後も必要かと思います。
- 参加し対話が増えました。自分の思いや理想とする活動についてアウトプットできる場があるっていいですね。

3）西区地域づくり大学校修了生の会

- 地域づくり大学校修了生（第 1 期～第 9 期）のつながりづくりを目的として、地域づくり大学校修了生の会をオンラインにて実施しました。
- コロナ禍で活動を中止していた方が、もう一度活動再開に向けて検討したり、参加者同士連絡先を交換したり SNS で知り合い、つながりあう機会となりました。

日時・場所	内容
3/27（土） 10:00－11:30 @オンライン 受講者数：16 名 （会場 1 名、 オンライン 15 名）	テーマ：今の活動について話そう、つながろう 現在の活動について、ざっくばらんに意見交換や活動紹介を行いました。

4）「Zoom 体験講座」

「Zoom の必要性はわかっても、使い方がわからないと使えない」という声に応えて Zoom 体験講座を開催しました。「体験版」と、自身がホスト役を行う「ホスト編」を開催し、西区の施設、自治会の方も多く参加しました。

6/19	Zoom 体験会	8
6/25	Zoom 体験会	4
7/30	Zoom 体験会	7
8/21	Zoom 体験会	11
8/21	Zoom 体験会ホスト編	14
9/15	Zoom 体験会	7
9/15	Zoom 体験会ホスト編	12
合計	7 回開催	63 名参加

５）外国につながる子ども対象　にしともるーむ

2018 年度事業「日本語・学習支援ボランティア養成講座」の修了生が中心となり、2018 年 9 月より学習支援教室「にしともるーむ」を開催しています。
（毎週火曜日 16:00～17:00 実施）
様々な国につながる子ども 8 名程度の小学生が通い、ボランティアの方とマンツーマンで、宿題など自分に必要な勉強をしました。
2020/6～2021/3　実施回数　36 回　（4・5 月は休館のため実施なし）

＜３＞意見交換会の実施

自治会町内会、センター利用者、地域人材ボランティア、区内関連施設などの方々にお集まりいただき、当センターの事業や役割について、また地域にある課題やニーズについてなど意見交換をしました。

日時・場所	参加者
1/29（金） 16:00－17:30 @にしとも広場 会場参加　5 名 オンライン参加　4 名	（以下 9 名） 西区第五地区自治会連合会　会長　　平野　周二さん（Zoom） 西区第四地区社協　会長　　米岡　美智枝さん（Zoom） 藤棚一番街協同組合　理事（今井かまぼこ店）　　今井　宏之さん 西区在宅介護者のつどいあけぼの会　代表　　竹下　淳子さん にしく名・達の会　会長　　服部　和男さん NPO 法人西区はーとの会　理事長　　三宅　義子さん 生活創造空間にし　施設長　　阿部　浩之さん 西区子育て支援拠点　スマイルポート　施設長　　新井　智子さん（Zoom） 認定 NPO 法人市民セクターよこはま　理事長　中野しずよ（Zoom）

＜ご意見より＞

- 自立支援協議会の事務局会議を Zoom で実施した。Zoom 講座を一緒にコラボしたい。
- 生活支援センター利用者（精神障害の方）の発表が、にしとも広場でできるのが有難い。今後も続けてほしい。
- この事態になって、第 4 地区社協は IT 化を進められたが、地域の NPO の力、助成金の力が大きかった。もっと地域の仲間を呼び込んで、自治会だけで絞らず視野の広い人を組み込んでいきたい。
- 地区会館をサテライトとして使って連携できたらよい。
- Zoom 初体験でこの会に参加したが、よくできた。にしともにある西区の歴史の本など使い、勉強会などしてほしい。
- 町内会のイベントで三味線をお願いしたが、とてもよかった。自分の役割として、名人・達人のことやにしとも広場のことを、もっと地域で発信していきたい。何でも頼んでほしい。

5．区・区民利用施設等との連携事業

＜1＞区民利用施設等との連携会議の実施（年１回）

地区センターやコミュニティハウスなど、情報共有の機会を持ちにくい施設もあるため、西区全施設が集う本会議は、貴重な情報提供・共有の場となっています。今年度は各施設１名と人数限定したうえで開催しました。

各施設とも自粛を強いられる状況ですが、そんな中での工夫事例や計画を共有し、次年度の連携に向けて積極的に情報交換しました。

日時・場所	内容
12/18（金） 13:00－15:15 @にしとも広場 参加：12 施設 14 名 区役所関係課　3 名 オブザーブ： 横浜市国際交流協会　1 名 （欠席 6 施設）	①　情報提供 ・地域振興課　2020 オリパラに向けて（巡回展示の案内） ・地域振興課　西区元気プロジェクト 2020 の報告 ・高齢・障害支援課　コロナ禍における介護予防 ②　各施設の情報共有 ・事前アンケートをもとにした事業発表・共有 ・お土産カードの記入（各施設宛に「いいね」「ご一緒に」の点で記入） ※事前アンケートとして「施設の現状、次年度の事業、ちょっと困っていること、一緒にしたいこと」を各施設から提出してもらい、とりまとめ一覧にしたものを当日全員の手元資料とし、発表・共有のツールとしました。 ※お土産カードの記載内容は、後日とりまとめ、一覧にして施設間で共有しました。

＜2＞センター事業における区内施設等との連携

●生活支援センターにし　との連携

『リカバリープログラム』として、生活支援センターにしの利用者の方に登壇していただく講座を開催しました。精神障がいの方の思いを知る機会と共に、利用者の方にとっては登壇することで自身の自信やステップアップにつながり、双方にとって開催意味のある講座となりました。

●西区社会福祉協議会と連携

ボランティアについての基礎知識や、現在募集されているボランティアについての情報など、ボランティア活動を始めたい人向けの講座を開催しました。

時間・場所	テーマ・内容
10/20（火） 10:00－12:00 @にしとも広場 受講者数：10 名	ボランティア入門講座 「ボランティアってどんなもの」 講師：西区社会福祉協議会 竹上　肇氏 ボランティアについて基礎を学び、今西区で募集があるボランティアなどとのマッチングも行いました。

＜3＞地域振興課が実施する生涯学習・市民活動支援講座　運営支援

- 今年度は地域振興課主催講座は開催されませんでしたが、次年度に向けて、ニーズや内容についての検討会議を実施しました。
- さくらフェスタは中止となりましたが、地域振興課主催の「にしくシティガイドグループ」ガイドツアーについて、準備から当日運営までの支援をしました。

6. 施設環境への取り組み

◆　つながり・活動を育む、居心地の良い場へ

今年度は各地で出向ける場所が少なくなり、「行ける場所」の情報を探しに来られる方もみられました。感染症対策をしっかり実施し、安心して立ち寄れる、ホッとする場所になるよう努めました。

ソーシャルディスタンスを保つため自ずと少人数開催になりますが、地域づくり大学校の参加者がにしとも広場を使ってミニイベントを開催したり、他施設で活動していた方が当センターでも講座を定例開催するようになったり、オンライン環境を活用して中継としたりと、活用の幅が広がりました。これまで以上に丁寧な対応や適切な情報提供、温かな場づくりを心掛け、「とりあえずにしとも広場に行ってみよう」、そう感じていただけるような、つながり・活動を育む場となるよう工夫しました。

1）　誰もが立ち寄りたくなる場づくり

- 参加者同士が知り合える、何となく仲良くなれるきっかけづくりを心掛けました。
- 地域人材ボランティアバンクの登録者の発表の場としても活用しました。

2）　居心地の良い環境づくり

- 配架しているチラシの中から、おススメ情報をピックアップして、入り口の掲示板に貼り出しました。
- センターに立ち寄られた方に、センターを利用しての活動を積極的に呼び掛けました。

3） 施設内安全への配慮

・ チラシ配架のラックの状態や、掲示物については画鋲が取れていないかなどを確認しました。
・ 月に 2 回、日を定めて設備や機材を点検し、安心して利用できる環境とし、事故を未然に防止しました。
・ ウィルス感染防止対策として、手指消毒を常備、検温、来館者カード、利用者用のアクリルボードの設置を実施しました。利用後は机等のアルコール消毒を行いました。

7. 職員配置体制・資質向上への取り組み

◆日頃からのコミュニケーションを大切に

職員個々のモチベーションはセンターの雰囲気にも影響します。日頃からのコミュニケーションを丁寧に行うことは、職員間の人間関係や、センターの雰囲気づくりや居心地のよさにつながると考えます。研修については、今年度は参加できる研修が激減しましたが、可能な限り内外の研修に参加し、スキルアップと新しい視点を取り入れるよう努力しました。また、閉館中の 4 月 5 月には、コロナ禍の状況に対応できるよう、Zoom 等オンライン利用方法について積極的に学びました。

1）現場訪問

・ 今年度は訪問できる機会が少なくなりましたが、可能な限り、市民活動や地域活動の現場に出向きました。
・ これらを職員間で共有する機会を設け、相談対応力やコーディネート力のアップにつながるよう努力しました。

2）相談力向上に向けた研修の実施（2 ページに掲載）

3）防災・減災、防犯、個人情報保護などに対応した研修の実施

・ 利用者がいる場合の地震や火災などの緊急時の対応や不審者が来た場合の対応を、職員会議等を通し学びました。
・ 個人情報保護に関する研修を全職員参加で実施し、さらに、日々の業務の中における情報漏えいを起こさない仕組みを全員会議で点検しました。
・ AED や心肺蘇生法の研修を実施し、救急救命の基本を再確認しました。
・ 西区総務課より、西区の災害発生時の区役所の役割や取り組み、防災に関する地域の状況など学ぶ機会を持ちました。

4）他区の区版支援センターとの情報交換および交流、研修への参加

・ 横浜市市民協働推進センターが実施するネットワーク会議に参加し、他地域の先進事例を学びあい、積極的に情報交換を行いました。
・ 相鉄沿線 6 区市民活動支援センター会議（年 1 回開催）は、今年度は中止となりました。

5）外部研修への参加

・ 各職員が、自主的に、自らの成長に必要と考える研修に参加しました。
・ Zoom 開催の講座に積極的に参加し、Zoom 講座ならではの注意点・留意点、進行方法などを学びました。

参加研修（抜粋）

開催日	研修名	主催等
5/23（土）	コロナ時代のまちづくり　（Zoom）	NPO 法人横浜プランナーズネットワーク
7/6（月）	～現場（会議・打ち合せ・サロン）で使える～ Zoom の使い方講座	一般社団法人認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ
8/14（金）	「分ける」ための一歩を　やまゆり園から考える	生活創造空間にし
8/2（土） 8/29（日）	描いて、見て、比べて学ぶ　グラフィックレコーディング入門編（Zoom）	文京区社会福祉協議会 地域連携ステーション　フミコム
9/9（水）	これからのボランティア活動～これからも「つながり、支えあう」ために～	横浜市社会福祉協議会
10/21（水）	法務少年支援センター（少年鑑別所）を通じた若者（保護者）支援（Zoom）	横浜東部ユース
2/23（火） 2/27（土） 2/28（日）	市民の参加と協働を進める多様なコーディネーション実践研究集会（Zoom）	日本ボランティアコーディネーター協会
3/22（月）	災害時の情報発信の現状と課題について（Zoom）	大阪ボランティア協会

8. 西区役所との協働

1）定例会議でお互いの成果や課題を丁寧に共有

・ 定例会議を月 1 回実施するほか、日常的にお互いの事業やそれに関わる情報を共有しました。

2）協働契約書を締結し、センターの事業目的の共有と双方の強みを活かした運営の実現

・ 区役所と民間である当法人が協働で事業運営に取り組むことで、双方の強みを生かし、相乗効果が得られるような運営としました。
・ 地域振興課、区政推進課、当センターの 3 者で、次年度の各課の担当事業や役割、当センターの事業展開に関する方向性などを話し合いました。

3）センター運営に関する協働のふりかえりの実施

・ 年度終了後に、「協働に関する相互検証シート」をお互いに作成し、にしとも広場の運営を協働で取り組んだことに関してふりかえりを行いました。